

## 岩手県北沿岸地域におけるトルコギキョウの抑制作型

岩手県北沿岸地域でのトルコギキョウの作型は、1月～3月播種、8月～9月出荷が中心であるが、単価は安い。そこで、やませ地帯の夏期の冷涼な気象条件を活かし、5月上・中旬播き、10月～11月出荷の抑制作型を開発した。

表1 久慈市（沿岸地域）と軽米町（内陸地域）での採花盛期と切り花品質の差

調査場所 (播種日)	品 種 名	採花盛期 (月日)	切り花長 (cm)	有効花蕾 数(個)	切り花重 (g)	茎径 (mm)	ロゼット 化率(%)
久慈市	あずまの粧（早生）	10.19	89.8	10.4	98.9	7.1	0.0
5月1日	あすかの粧（中生）	10.23	91.9	6.4	97.3	7.4	0.0
久慈市	あずまの粧（早生）	10.23	79.5	7.2	74.5	6.7	0.0
5月15日	あすかの粧（中生）	10.28	85.8	10.4	83.6	7.3	0.0
軽米町	あずまの粧（早生）	9.25	61.6	5.4	36.5	4.1	5.0
5月1日	あすかの粧（中生）	10.5	60.3	7.7	50.6	4.5	0.0

軽米町5月15日区は高温ストレスにより年内開花せず。

ロゼット化率は、あずまの粧10.0%、あすかの粧15.0%

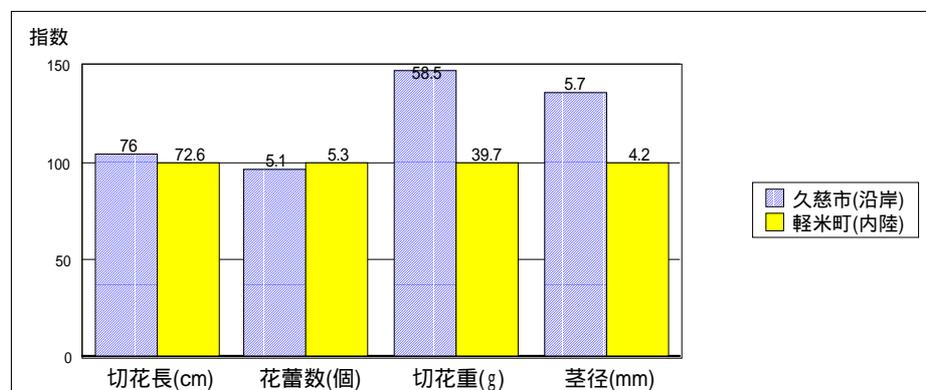


図1 定植地の違いが切り花品質に及ぼす影響

(播種日：平成10年5月1日、育苗場所：久慈市、品種：あずまの粧)

軽米町の数値を100とした指数。グラフ内の数値は実数。

県北沿岸地域のこの作型では、育苗中の短日処理や低温(冷房、夜冷)処理をしなくとも、高温障害であるロゼットの発生はみられない。

また、県北内陸地域に比べ同沿岸地域では、切り花品質が優れ、生育後半まで自然日長で、良品が生産できる。



写真1 トルコギキョウの開花状況